

様式 (7)

| | |
|--|---|
| 報告番号 | <div>甲 保</div> <div>第 46 号</div> <div>乙 保</div> |
| 論文内容要旨 | |
| 氏 名 | 中 野 葉 子 |
| 題 目 | Nurses' perception regarding patient safety climate and quality of healthcare in general hospitals in Japan (日本の総合病院における医療安全風土と医療サービスの質に関する看護師の認識) |
| <p>患者に対して安全な医療体制や質の高い医療を提供することが求められている。その背景には、医療の高度化や、患者が医療をサービス業として認識しはじめたこと、消費者としての権利意識を高めていることが挙げられる。その結果、医療の安全性は世界的にも主要な関心事になりつつあり、より安全で安心なケアを提供することは医療機関での課題となっている。</p> <p>医療機関における安全の文化は、患者の安全とケアの質を向上させるための中核的な要素である。したがって、医療安全風土のさらなる発展と医療サービスの質の向上につながる方策を検討するために、患者の安全風土や医療の質に影響を与える看護師の認識や属性を検討することは意義がある。</p> <p>本研究の目的は、日本の総合病院における医療安全風土と医療サービスの質に関する看護師の認識を明らかにすることである。調査は病床数200床以上の総合病院を対象に実施した。測定尺度はPSCS (Patient Safety Climate Scale) とM-SERVQUAL (Modified multiple-item scale for measuring consumer perceptions of medical service quality) を用いて実施した。M-SERVQUAL とPSCSとの間に有意な正の相関があり、患者の安全に対する得点が高い人は、医療サービスの質に対する得点も高いことが明らかとなった。医療安全に関連した委員会の委員の経験と職位では、医療安全風土と医療サービスの質に対する考え方には有意な差は認められなかった。</p> <p>PSCS 職員の態度要因第4因子の「患者・家族の参画」では、経験年数 1-5 年の群が経験年数 11-15 年の群、21 年以上の群よりも有意に高い得点を示した。経験年数の浅い看護師は、医療事故を未然に防ぐために医療プロセスに患者や家族を参加させていると考えられた。M-SERVQUAL の総得点では、経験年数 21 年以上の群が 6-10 年の群に比べて有意に高い得点を示した。経験年数 21 年以上の看護師は、複数の部門で経験を積んだジェネラリストであり、多くの経験を積み重ね、患者の個々のニーズをよりよく理解していると推察された。医療サービスを受ける患者との相互理解と信頼関係に基づいて安全管理に裏付けされた医療サービスが提供されることで、さらなる患者の安全の醸成と医療サービスの質の向上につながると期待された。</p> | |